

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【食】

1. 都道府県、市町村 沖縄県^{よなぐにちょう}与那国町
2. 団体名 農業生産法人 与那国島薬草園株式会社
3. 取組みの名称 地域資源（ボタンボウフウ：長命草）を活かした島おこし
4. 取組概要等

◇概要

与那国島は、沖縄本島から南南西へ520kmに位置する日本最西端の島で、西隣の台湾までは111kmの至近距離にあり、晴れた日には台湾を望むことができる。産業は基幹作物のさとうきびを主とし、水稻、畜産、漁業の1次産業が営まれている。

長命草は、セリ科の植物で和名をボタンボウフウと言ひ、海岸の断崖や岩場に多く自生している。古くより、「滋養強壮・高血圧・動脈硬化・リュウマチ・神経痛・風邪」等に効くと言われており、現在でも食されている。

与那国島ではモヤシ、唐辛子で味付けした長命草の味噌あえを「ス」と呼んでおり、琉球三大祭の一つと言われるマチリの供え物として欠かせないものであり、参列者にふるまわれている。長命草は、古くは子どもの健康祈願のために神に捧げられた植物でもあり、マチリでの供え物としての過程等を通じて、町民は長命草が健康や長寿につながるものとして体感してきた。この長命草を、付加価値の高い特産品としての可能性を見出し、新たな産業と製品開発により町おこしの起爆剤とすることとした。

平成15年に乾燥機を1台設置し、乾燥技術を習得すると併せて長命草の作付けを開始し、乾燥葉の試験出荷を始めた。平成16年度からは生産農家9戸で生産組織を立ち上げて、生葉16.3トンを買上げ、乾燥葉1.63トンを初出荷した。その後平成20年2月には農業生産法人を設立した。

現在では製品開発会社と提携し、粉末を利用した、青汁、お茶、素麺、あめ玉、ちんすこう、こんにやく等の製品を開発して販売も行っており、販売の際には製品のラベル等に与那国島の位置図や「与那国島」、「与那国島産長寿草使用」を必ず明記し、与那国島のアピールの一役を担っている。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
乾燥量		16.4	36.8	25.1	82.0
解説	単位：トン 長命草				
売り上げ量		4,100	9,200	6,275	20,500
解説	単位：千円 長命草の粉末を利用した加工品等				

◇活用している地域資源

- ・地元産の薬用作物（ボタンボウフウ：長命草）

◇地域活性化のポイント

特産品にこだわり、地元産の良さをPRするとともに地域資源を有効活用し、生産農家との連携を図り、安定生産体制づくりを行ったことで製品開発会社との信頼関係を強化することができた。

また、地元産の食材に自信と誇りを持ち続けることも大切であり、先人たちの知恵や工夫を真似てみて、それを工夫して活かしていく努力も大切である。

◇事業の今後の展開方向

現在の加工施設では、洗浄を手作業で行っており作業が効率が悪く、作業効率・安定生産向上のため新たな加工施設の建設を平成20年度で計画している。

また、需要拡大に伴い生産農家と連携し、栽培面積の拡大や安定供給を図ることで「与那国島ブランド」としての定着を目指すと同時に、全国販売を行っていく。



